

高次脳機能障害者小金井友の会たより 20号

2018年8月1日発行

第7回総会・第11回講演会
2018年5月19日(土) 萌え木ホールにて

いちごえ会6年の歩みと 高次脳機能障害者の社会復帰に向けた課題

第7回総会

第11回講演会

総合司会 渋谷泰幸理事

まず増村幸子代表が次のように挨拶しました。
「いちごえ会創立時の目的は地域で働き、安心して暮らす」です。介護する家族が倒れたらどうなるのか、多くの不安があります。設立時の原点に戻り障害に合わせた「カスタマイズした働き方や仲間と一緒に住むを実現するための勉強会を行ってまいります」

議長に武藤和義理事を選出し、活動報告・会計報告、活動計画・予算・役員案(緑川晶氏を新しく顧問に推薦する)すべて承認されました。



障害者のリハビリテーションとは
全人間的復権
(講師) 上田 敏氏

元東大医学部教授、
(公財)日本リハビリテーション協会顧問、
いちごえ会顧問。
学術名高次脳機能障害を定義

いちごえ会 6年の歩み

設立 2012年(平成24年)7月1日

目的 「高次脳機能障害者が生きがいを持って働き、生きる場所をつくる」

姿勢 問題を一人で抱え込まないで会員が互いに助け合う3本の矢 交流会、茶和会、相談会を継続し、当事者と家族の支援、交流を深める。

特に上田敏先生による相談は詳細な問診と診察で「良い生き方・人間らしく生きる」を実現するために当事者のみならず家族に対しても、随時継続相談を行っている。

高次脳機能障害から立ち直るために、プラスを伸ばし、上から良くする(日常生活行為が安定してから社会参加するのではなく)生きがいのある仕事、趣味、仲間など作ることが大事。それが自信とゆとりを生み、症状の改善につながる。

障害のある人のリハビリテーションとは病気や事故で人間らしく生きることが困難になった人の権利の回復であり、あらゆる面での全面的な権利回復である。


高次脳機能障害は見えない障害であり、医療・行政・福祉教育の専門家にも知識が不足し、不適切な対応が多々ある。

当事者・家族の責任として自己決定権をはじめとする障害者の権利を主張するとともに、それを適切に行わせる責任、その権利を社会、専門家に認識させる責任もある。


最後に魯迅の言葉で締めくくられました。

私たちの歩く先に道はない。私達の歩く後に道ができる。

編集責任者：増村幸子
編集者：村田雅英
〒184-0004
小金井市本町2-20-9-103
ホームページ：<http://ichigoe.org/>
メール：info@ichigoe.org

<新しく顧問になられた>

中央大学 文学部 人文社会学科
心理学教授・臨床心理士 緑川 晶氏
皆様のお役に立つよう頑張ります。

西岡真一郎市長の来賓挨拶に続いて行政報告がありました。

<行政報告>

小金井市福祉保健部
自立生活支援課長 加藤真一氏
「小金井市の障がい・福祉政策について」

高次脳機能障害者への支援としては「都心障」の講演会に積極的に参加し、情報共有し、レベルアップします。いちごえ会の講演会を後援し、「市報」に掲載しました。

総会を終えて右から
自立生活支援課長 加藤真一氏
小金井市長 西岡真一郎氏、
いちごえ会代表 増村幸子氏
いちごえ会顧問 上田敏氏



平成30年度第1回 高次脳機能障害者相談支援研修会

2018年6月6日(水)
講演 高次脳機能障害の基礎知識
講師 渡邊修氏
東京都高次脳機能障害者相談支援体制連絡調整委員会座長

ご家族と当事者の体験談
講師 杉並区、小平市在住S氏他

行政、保健所、社協、就労支援センターなどの若い支援員350人は熱心に聞きメモを取っていました。

渡邊修先生の講演では具体的に症状と対応を解説、それらを踏まえて高次脳機能障害者には地域の相談・支援が大切と強調されました。

高次脳機能障害者の就労支援には企業の理解が非常に重要であり、A型、B型作業所と企業の連携で就労移行が出来つつあると述べられました。

体験発表では言葉の不自由な方が、一生懸命話されると会場はシーンと静まり胸が熱くなりました。

小金井市 住宅防火防災対策推進協議会

2018年7月12日(木)
要配慮者の安全対策で障害を持った方への被害軽減のため、今回いちごえ会も参加を要請されました。

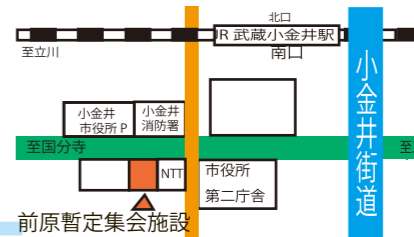
小金井市総務部長を始め消防関係者、各地区の民生児童委員協議会、地域包括支援センター各種障害者団体から参加し、住宅火災の発生状況、火災の事例、火災実験映像の紹介、被害軽減の関係機関の連携について話し合いました。

TKK総会

2018年6月24日(日)
平成29年度事業・会計報告、次年度の事業計画・予算案他全てが可決されました。
新理事に増村幸子代表が総会にて選任されました。
総会出席者は増村、三輪、後藤、村田の各理事で、TKK事業の柱である「アプローチ講習会実行委員」として三輪理事、後藤理事の参加を重ねて要請されました。

第17回交流会

2018年8月26日 13:30~
参加費 無料
前原暫定会場




第1部 自己紹介
第2部 体験発表
夏の思い出 やりたいことなど

詳細はホームページをご覧ください。
<http://ichigoe.org/>

緑川ゼミ浜本加奈子さん卒論報告会

2018年5月7日(月)



卒論で「高次脳機能障害の方の介護者への心理的支援(傾聴)による精神的健康度および介護負担感の変化に関する検討」を取り上げられました。茶和会の我々から傾聴され、緑川先生とご一緒に報告を受けました。
介護の苦労話を穏やかに傾聴して下さい、いい信頼関係が生まれました。今後は心理士として障害者支援を勉強するために同大学の大学院に進学されました。傾聴に応じた仲間が集まり、卒業と進学をお祝いしました。高次脳機能障害者への支援の輪が広がるよう期待しながら、見守りましょう。

ほくたち、私たちの声


まんが：しげもり きょうた(当事者)



ほくと、心がかえした！
いちごえ会の
2018年7月10日(日)は
前原暫定集会施設 2階B会議室



村田雅英さんのお話です！
当事者としての



私もちもちの上で解って...
自然と涙が...
Shige
発症の前と後のいろいろ...
そして...『未来へ』...



ほくの、私の...様々な
当事者の声をもっともっと
伝えて行こう！
私の出来る方法で！と
決意したのでした!!
Shige



当事者・家族によりそって

丁寧な問診と
暖かい言葉で
アドバイス

2018年4月16日 Kさん

継続相談でSTの綿森淑子先生が検査して下さいました。ご夫婦おそろいで相談に来られ、前回と比較して症状が改善され、表情が明るく、和やかでした。今後は国リハに通所し、社会復帰に備えたりハビリをされることになりました。



感想 KYさん

4月16日言語聴覚士の綿森先生による面談と言語聴覚のテストを夫（当事者）が受けさせていただきましました。昨年8月にも同じようなテストを行って頂いたのですが、その際には一時間を越える質疑応答に夫の集中が続かず、イライラしたり答えがいい加減になる事がありました。今回は最後まで集中し、ひとつひとつの問題に熟考する様子を見て回復を実感しました。今年に入ってから自分の障害へ向き合う姿勢も表れ治療にも前向きになってきたように思われます。貴重な機会をいただきありがとうございました。

2018年5月13日 Nさん

発症後約3年、記憶、注意などの障害があり、丁寧な問診から始まり、歩容（歩き方）、足の痛みなどを診て日常生活、希望などを話しました。若い高次脳機能障害者の居場所がなく、送迎付き高齢者向けデイに通所し、在宅時は寝たり起きたりの生活で歩くと疲れ、転ぶことが多くなりました。

運動不足からくる筋肉の減少、転倒、疲れ、刺激のない日常から①いちごえ会の交流会・イベント参加、②移動支援制度を利用し、ヘルパーさんと散歩する③手帳の取得を勧めました。運動不足から無気力になりやすいのでいちごえ会の仲間との交流を勧めました。

2018年6月21日 Kさん

久しぶりに少年Kさんのお母様との相談でした。Kさんは脳の別の部分の間に回線を通じ始めたようで、今まで出来なかったことができ始めて、楽しい反面緊張感もあり、上田敏先生は「温かく見守り、必要な時だけ手助けする」ことをアドバイスされました。

2018年6月23日 Sさん

B型作業所に通所中、学生時代に高次脳機能障害者になり無年金で今後の生活設計に不安が残ります。介護する親亡き後どうするか、いちごえ会でも取り組まねばならない課題です。親亡き後は仲間でお互いに助け合って生きるシステムの構築が急がれます。

2018年6月23日 Sさん

新入会のSさん、くも膜下出血を発症、リハビリテーション病院を退院後小金井市就労支援センターからの紹介で相談に来られました。

記憶障害があり、障害者手帳を取得し障害者雇用に向けた準備をすることになりました。生活設計に家族の不安が深く、今後は茶和会などでお互いに助け合うこと申し合わせました。

グループカウンセリング



2018年6月29日 Kさん・Sさん

ほぼ同年代の2人のグループカウンセリングを行いました。

同じような事例でお互いの症状や悩みに共通する部分があり、上田敏先生の司会でグループカウンセリングの良さが発揮でき有益でした。

終了後当事者・家族はほっとしてにこやかでした。今後は茶和会、交流会に参加し、いちごえ会の仲間とともにお互いに助け合うことを約束しました。

第10回茶和会

2018年4月14日(土) 9名参加

初参加は入会間もない家族のKさん、曾田玉美さんでした。

Kさんは「ご主人が昨年未事故で高次脳機能障害者になり、リハビリテーション病院を退院したばかりで、子育て、介護、保険の請求、制度の利用、リハビリテーション、復職など問題山積にも拘わらず、誰に相談していいのかわからない」と涙ながらに訴えられました。

曾田玉美さんは「高次脳機能障害者が社会復帰するための教育用VTRを作成し、当事者や家族の困りごとや「あったらいいな」を収集し療法士や支援者へ高次脳機能障害者・家族への理解と支援に役立てたい、Kさんの訴えはお叱りと受け止め理解と支援の必要性を痛感したと話されました。

茶話会のメンバーは自分たちの通った道でありKさんの苦勞をしのびKさんにアドバイスをしました。



曾田 玉美 さん
目白大学保健医療学部
作業療法科教授
NPO 法人みんなのセンター
おむすび理事長

高次脳機能障がい当事者・ご家族としてベテランの方から、まさに今、どうしたらよいかと悩みの渦中にいらっしゃる方まで様々な方が、和気あいあいと、時にはとても力強く、自らのご経験をもとに支えあう場面が印象的でした。

いまだに病院から地域サービスへの移行が円滑にいかないこと、その為孤立してしまいそうになっていることも再認識しました。またいちごえ会の素晴らしい「支援力」をまじかに知ることができて、私も板橋区の地元で頑張るぞ、と決意を新たにしました。一人でも多くの高次脳機能障がいの方が社会参加をあきらめないように、力を合わせたいと思います。

曾田 玉美記

第11回茶和会

2018年7月14日(土) 7名参加



Sさんは1年半前にお嬢さんがくも膜下出血で倒れ、小金井市障害者就労支援センターからの紹介で入会されました。制度の利用、手帳の更新など意見交換しました。

最近介護する家族の病気が入院が相次ぎ、みんなで励まし合い、助け合うことを話し合いました。

名簿の整備、茶和会開催のお知らせ方法を確立し、緊急時の連絡網を整備することを決めました。

開催予定は年3回、3月、7月、11月各第二土曜日に決めました。次回は11月10日(土)です。

災害支援情報キット ご存知ですか？



救急医療情報を記入した筒を冷蔵庫の上段に置くことになっています。未だの方は小金井市役所に問合せ下さい。

第2回

ほっと♡かふぇ



2018年6月10日
参加者は13名

司会は重盛さん、ゲストは村田雅英さんでした。

参加された方々の自己紹介後、村田さんの体験発表を皆さんで聞きました。発症前、発症後の様子、退院してから苦勞されたこと、いちごえ会を立ち上げたころ、現在していることを聞き、今後の希望、夢を聞きました。村田さんの体験発表はとても楽しく貴重な話でした。コーヒー、ジュース、お菓子を頂きながら、参加者からの感想、困っていること、発症時期のことなどをゆるく、気がねない形で、皆さんと本音で話し合えて楽しかったです。

又皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。
保手（ほて） 希一郎記

